

- 氏名 : 宮西 洋幸
- 会員番号 : PE0303
- 専門分野 : 土木工学 (交通分野)
- 保有資格 : FE Civil, TOEIC770 点,
技術士 (総合技術監理部門、建設部門) ,
一級土木施工管理技士



FE 試験受験 : 2019/04

PE 試験受験 : 2019/10

PE 登録 : 2020/09

1. NCEES Credentials Evaluation

2019 年の 12/13 に PE 試験の合格が判明したことを受け、12/19 に母校の教務課に赴き、和文シラバスの原文を借りてコピーを取りました。その後、内容をデータとして転記し、英訳作業を進めるのと並行して、JSPE にシラバス事前評価を申し込みました。年末にシラバスの日英対訳を登録後、年が明けて 1/15 に、JSPE から事前評価結果をいただきました。所要単位数はクリアできそうだったとのことでした。

その後、JSPE からいただいた助言に沿って、シラバス日英対訳の内容に追記・修正を施しつつ、NCEES に送付する際の翻訳証明を、2/5 に改めて JSPE に申し込みました。

引き続き、届いた要修正箇所に対応し、3/10 に翻訳証明の段取りがほぼ終了したとのメールが届きました。シラバスの英訳作業と修正対応には約 2 か月半を要しましたが、あらかじめシラバス独特の英文表現を把握したうえで、全体に反映させると、スムーズに進んだであろうというのが反省点です。

また、母校にも各種書類の発送段取りを確認し、3/16 に、母校から NCEES へ、リクエストフォーム、英版の卒業証明書、成績証明書が発送されました。3/19 には JSPE での翻訳証明も完了し、NCEES へと発送されました。母校の担当者が、NCEES に書類を送付したことのある経験者だったこともあり、段取りをよく伺うことができて、両者からの発送時期をうまくあわせることができました。

母校と JSPE から EMS で発送された書類は、3/25 までに NCEES に到達したことが確認できましたが、NCEES の WEB ページによると、新型コロナウイルスの影響で、NCEES もテレワークとなっており、内容確認に 2~3 週間かかるとのことでした。

4/7、到達から 2 週間で、書類の内容が確認され、受理されたことを My NCEES で確認し、ただちに Evaluation fee をクレジットカードで支払いました。

その後早くも 4/9 に審査結果が出ましたが、後掲のとおり、Engineering 課程が 9 単位足りない結果でした。JSPE による事前評価結果と比較して検証したところ、測量学や実験系の単位が Engineering 課程と認められず、こうした結果になったことがわかりました。学生時代にギリギリの単位数で卒業したことによる因果応報ではありますが、シラバスの記述内容を工夫すれば、これらの単位も Engineering 課程と認められたのかもしれない。ともあれ、審査レポートの最後に記載されていた、「最終的に PE 登録を認めるかは州ボード次

第]との一文に望みをかけ、前に進むこととしました。

COMPARABILITY SUMMARY

Outcome: Not Equivalent		
Area	Hours	Deficiency
Math/Science	38 / 32	None
Engineering	39 / 48	Missing 9 hours
General Education	28 / 12	None
Elective/Other	28 / N/A	None

2. PE 登録申請

PE 登録州の選定にあたって、まず JPEC の WEB ページに掲載されている、各州の登録情報を確認しました (<https://www.jpec2002.org/registration/conditions.html>)。この中から、日本からの申請者に関する追加情報のある、ケンタッキー、ノースカロライナ、テキサス、ミズーリ、ミシシッピ、テネシーの各州をピックアップして、各州ボードの WEB ページをチェックし、情報を収集しました。比較検討の結果、日本の技術士による Reference が認められるなど、自分にとって条件の整えやすいケンタッキー州を選定しました。

4/23 から、ケンタッキー州ボード向けの登録申請様式に記載する、業務経歴の準備を始めました。ケンタッキー州の場合、外国人の登録申請は、PDF の申請様式に所定事項を記載し、メールや郵送で送付することとなっています。

(<https://kyboels.ky.gov/Getting-Licensed/Pages/Engineering-License-Process.aspx>)
またケンタッキー州ボードの WEB ページには、Experience Guidance として、業務経歴に記載すべき/審査する項目が挙げられており、これをベースとして自らの経歴を当てはめつつ記述しました。

(<https://kyboels.ky.gov/Getting-Licensed/Pages/Licensure-as-a-PE-Application-Instructions.aspx>)

ケンタッキー州の WEB サイトでは、学歴条件として、「NCEES での Credentials Evaluation による評価が必要」との記載があるのみでしたが、マサチューセッツ州の条件では、「12 年間の工学実務経験を有し、6 年以上の重要な工学プロジェクトを担当し、FE 試験に合格していれば、ABET 認定は不要」との記載があったこと、JSPE の先輩方の登録体験記でも Not Equivalent ながら PE 登録できた例を見ていたことから、一定の期間の業務経験があれば、ケンタッキー州ボードも登録を認めてくれるであろうと、楽観的に考えて臨むこととしました。

5/14 までに、これまでの業務で関わりのある、PE1 名、大学教授 1 名、技術士 3 名の皆さまから Reference の了承をいただき、その後登録申請様式を書き上げて、5/18 に、これまでの上司にもあわせて、PE の概要と登録申請様式をメールで送付し、Reference と業務経歴証明をお願いしました。翌日 5/19 には、ケンタッキー州ボードに登録申請様式をメールで送付し、あわせて Fee のクレジットカード払いに関しても確認を取りました。

しかしその後、ボードから何ら反応のないまま 1 ヶ月あまりが経過し、7 月を控えて業務経歴に記載した関係

者の異動が生じたことから、登録申請様式の内容をアップデートして、こんどは紙で発送し直すこととしました。郵便局に赴くと、**コロナ禍を受けて米国向けの EMS の受付が中断**されており、仕方なく DHL で 7/1 に発送しました。書類は 7/3 にケンタッキー州ボードに到達しましたが、どうせ DHL で送るのならば、あわせて Application fee のマネーオーダーを同封すべきだったと気づきました。しかし郵便局で確認してみたところ、**マネーロンダリング対策の一環で、2019 年 12 月末に住所宛送金のマネーオーダーは取り扱いを終了**したとのことでした。

その後、ボードに電話やメールで問い合わせるも反応がなく、悶々と過ごしていましたが、7/13 にようやくボードから、Application fee のクレジットカード払いに関するメールが届きました。コロナ禍の混乱も一因かもしれませんが、5 月以降こちらから働きかけ続けて、ようやくともに先方の反応が来た形です。直ちに、3 通のメールに分けてクレジットカード情報を送付し、7/21 に、Application fee を引き落としした旨のメールが届きました。申請書を最初に送ってからはほぼ 2 ヶ月。ようやくの審査開始でした。

7/28 にボードから、Reference と業務経歴証明の依頼を、各者に発送したとのメールが届きました。ボードには、自身の住所が間違いない旨をメールで返信しました。

その後も音沙汰がありませんでしたが、8/27 にボードからメールがあり、元上司 2 名からの業務経歴証明を待っているとのこと。さっそく 2 人にメールして、こちらからもリマインドした結果、上司の一人はメールを見落としていたこと、もう一人は職場のメールサーバが弾いてしまっていたであろうことが判明しました。ボードともやり取りして、8/30 までに対応を終えました。

9/17 早朝、ボードの WEB ページで確認したところ、9/15 付けで PE 登録が完了したことを確認しました。登録手続きの所要期間は 4 ヶ月。忍の一字に尽きるものでした。

その後、州指定の体裁のスタンプを発注しました。電子データは同日に、実物もほどなく到着しました。

(<https://www.pestamps.com/product/kentucky-engineer/>)

また、10/15 にボードからメールで、PE Certificate の写しや CPD に関する規定などが届き、10/21 には USPS で、PE Certificate の正版が届きました。これでようやく一連の手続きが終わりました。



3. おわりに

PEを志して1年11ヵ月、PE試験に合格してから10ヵ月で、PE Certificateを手にすることができました。手続きには紆余曲折あったものの、シラバスの英訳証明などの相談に応じたくださったJSPEの皆さまや、Referenceと業務経歴証明を受けてくださった皆さまのお力添えで、なんとか乗り越えることができました。改めて皆さまにお礼申し上げます。

以上